

日本図書館研究会 2020年度決算報告・2021年度事業計画・予算案

2021年度事業計画等の 提案にあたって

理事長 原田 隆史

COVID-19は変異株のまん延もあって1年以上が経過しても猛威をふるい続けています。世界各国でワクチンの接種が予想以上の効果をあげているという報道もあり、明るい兆しが少しは見えてきているものの、日本ではまだまだであり、完全に駆逐することはできないとも言われています。with コロナへの対応が社会全体で求められているともいえるでしょう。

世界中の各学会でも研究発表のオンライン化など、さまざまな工夫をこらして接触を少なくしつつ情報交換を行う場を確保する試みが続けられています。日本図書館研究会でも、昨年度の多くのイベントをオンライン開催してきました。一昨年度は開催することができなかった研究大会も2日間にわたってオンラインで開催し、100名以上の方々に参加していただくことができました。研究発表に加えて「コロナ禍における図書館～パブリックの再構築に向けて」と題したシンポジウムも多くの方に視聴いただき熱い議論を楽しんでいただけたものと自負しております。新しい試みでもあり、ソフトウェアの操作やカメラワークの不慣れなことがありました。また、ネットワークの問題などから一部の方には音声が少ない途切れがちなことがあったなど、ご迷惑をおかけしたこともあるかと思います。不手際についてお詫びするとともに、関係者各位の努力に感謝いたします。

一方で、オンライン開催は遠方で旅費や日程面から参加が困難であった方々にも参加していただきやすくなるという良い効果も生み出しています。一部の時間帯だけの参加も可能となったことで、少人数

でのオペレーションをされている図書館員の方々にも必要に応じて参加いただくことが可能になったと思われます。コロナに対応してはじまったことではありますが、少しでも災い転じて福となす部分があれば幸いです。予算面、時間面などの効果を検証し、今後とも必要に応じて部分的にオンライン開催を取り込む形を検討していきたいと思います。

◇ ◇ ◇ ◇

2020年度も日本図書館研究会の財政は厳しい状況が続いています。個人会員数は、ほぼ横ばいでとどまったものの団体会員が減少するなど予断を許しません。理事会や研究大会のオンライン開催による交通費の減少などもありますが、実はオンライン開催も大規模開催ではそれなりの費用が必要であり収支状況は予断を許しません。またアフターコロナにおける多様な活動のためにも皆様とともに多くの方に参加いただけるように、できるだけのことをしていきたいと考えています。

本号が皆様のお手元に届く頃には日本図書館研究会のホームページのリニューアルも完了しているかと思えます。今回のリニューアルではCMSの導入も行い柔軟なホームページの更新を可能にする環境を構築いたしました。現時点では仕組みの変更ですが、今後は多様な情報をタイムリーに提供する手法を模索し、さまざまな興味や関心をお持ちの会員の方々に対して、少しでもお役にたてるような活動を実現するようにする予定です。

以下に掲載する事務局長および各委員長、担当からの提案説明、事業計画、予算案などの内容を検討していただき、本会の実質的な最高議決機関である評議員会の審議に向けて、会員の皆様からの多くのご意見、ご提言を期待しております。

日本図書館研究会は2021年11月に創立75周年を迎えます。今年度は75周年記念行事も計画しております。今後とも会員の皆様方のご指導とご協力をお願い申し上げます。

(はらだ たかし 同志社大学)

事業計画・予算案の提案説明

事務局長 松井 純子

1. 2020年度決算

2020年4月7日に最初の「緊急事態宣言」が発出されてから1年余り。新型コロナウイルスの感染縮小と再拡大が繰り返される中、日図研もその影響を受けて、活動の中止や延期、さらにオンラインへの移行等の対応を行いました。その結果、一般会計で想定外の繰越金が生じました。

まず一般会計の《収入》です。「会費」収入は、やはり予算を下回りました。個人会員はそれほど減少しませんでした。団体会員のほうが2019年度よりも20件以上減少しています。日図研を退会する図書館と、『界』の購読を書店経由に切り換える図書館とがありますが、団体会員の退会は大幅な収入減になるため、危機感を持っています。

『『界』売上げ』『広告料』『利息』はほぼ予算どおりでしたが、「雑収入」はコロナ禍のため事務所使用料が入らず、予算を下回りました。また、役員選挙費用として特別会計から40万円を繰り入れました。《収入》全体では、残念ながら当初予算よりも10万円ほど少なくなりました。

次に一般会計の《支出》です。コロナ禍で、委員会と理事会は主にオンライン、評議員会は通信形式での開催となり、「会合費」と「交通費」の支出が大きく抑えられてしまいました。

「研究助成費」でも、研究大会とブロックセミナーがオンライン開催、研究例会も主にオンラインでしたが、支出はそれなりの額になりました。というのも、19年度研究大会(2020年2月22～23日)の中止にとまなう経費補償で約20万円を支出したほか、20年度研究大会ではシンポジスト交通費・謝礼15万円を含む諸経費18万円、拡大例会を含む研究例会関連6万円、Zoomアカウント関連費用4万円など、オンライン開催であっても、大規模イベントではそれ

なりの経費がかかったためです。

「雑誌刊行費」は、19年度研究大会中止や国際図書館学セミナーの延期(いずれもコロナ禍のため)により、シンポジウムやセミナー特集が『界』に掲載されなかったことなどの影響で、やはり支出が抑えられました。また、「事務局費」に計上されていたHPリニューアル費用50万円は、事業そのものは実施されましたが、精算が間に合わず21年度に持ち越しました。他の費目は例年と同様の支出額でした。

一般会計では、結果として約273万円を繰り越しました。HPリニューアル費用を除くと、実質223万円の繰り越しです。コロナ禍でも活動の縮小や停滞を招かぬよう努力しましたが、コロナ前と同じ活動はさすがに困難でした。

特別会計に移ります。《収入》すなわち刊行物の売り上げの合計は、予算を85万円以上上回りました。特に新刊『図書館・図書館学の発展：2010年代を中心に』(『界』400号単行本)が大変好評でした。同じく新刊『情報資源組織法』(『図書館資料の目録と分類』改題・改訂)も、テキストに採用されるなど好調です。

特別会計の《支出》は、『図書館・図書館学の発展』『情報資源組織法』の「出版印刷費」約368万円を執行したほか、転載料などの「出版編集費」を34万円支出しました。また上述のとおり、一般会計に役員選挙費40万円を繰り出しました。その結果、新刊2冊の印刷費が多額だったため、特別会計の繰越金は、前年度よりも約150万円減少しました。

第2特別会計(図書館研究奨励賞基金)は、「利息」による《収入》が多くありました。《支出》は、例年と同じく奨励賞授賞者への副賞と事務費です。

第3特別会計(75周年記念事業積立)の《収入》では、10名の会員から9万3千円の「寄附金」が寄せられました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。《支出》は、記念事業の一環として座談会を実施しましたが、経費の支出が間に合わず、収入全体をそのまま繰り越しました。

以上により2020年度は、一般会計273万円、特別会計1,670万円、第2特会1,053万円、第3特会273万円と、いずれも多額の繰越金を確保できました。しかし、21年度はいよいよ創立75周年の当該年であり、事業の実施に多くの支出が見込まれます。加えて、コロナ禍でいかに活動を維持していくかが問わ

れています。会員の減少傾向も続いており、会費収入の増収は見込めません。悩ましいところです。

2. 2021年度事業計画(案)

新年度早々、新型コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」が大阪・兵庫・宮城に適用されました。したがって21年度も、コロナ禍での活動を念頭に、事業計画案・予算案を立てざるをえません。国内開催となる国際図書館学セミナーは、2022年度にまでも延期としました。研究大会や研究例会、ブロックセミナー等の行事も、当面はオンライン開催が想定されますが、状況次第で集会形式での実施も検討します。活動を停滞させず、会員の皆さまに研究・研修・交流の場を提供できるよう最大限努力しますので、ご協力のほどお願い致します。

なお、上述のとおり、日図研は2021年11月に創立75周年を迎えます。これを記念し、10月30日(土)に記念式典・図書館学セミナーの開催を予定しています。『界』次号(73巻2号)で予告、73巻3号で詳細をご案内しますが、多くの皆さまにご参加いただけるよう計画しています。また、『界』73巻4号を75周年記念号とし、創立50周年から75周年までの日図研のあゆみ等をまとめた特大号をお届けします。

3. 2021年度予算案

2021年度もコロナ禍での活動が見込まれますが、できるだけ平常に近い活動を行えるよう、予算案も従来と同程度の金額を措置しています。

一般会計の《収入》のうち「会費」は、団体会員を320件に減らして予算化しました。個人会員、学生会員は2020年度と同じです。「広告料」は、広告主が1件減るため、予算を減らしました。また、第3特会(75周年記念事業)から220万円を繰り入れて『界』75周年記念号と図書館学セミナーの費用に充てます。

一般会計の《支出》は、昨年度支出が減少した「会合費」「交通費」でも、昨年度と同額にしました。「研究助成費」も削減せず、むしろ75周年記念事業として図書館学セミナーを開催するため、30万円を増額しました。「雑誌刊行費」も、『界』73巻4号(75周年記念号)刊行費用を含め約250万円を増額しています。ほかにも、会員の獲得に注力するため「組織強化費」をやや増額しました。他方、「研究調査費」は研究グループ助成を申請したグループ数の減

少にともない減額し、「国際交流費」も国際図書館学セミナーの22年度への延期により減額しました。また、従来は「印刷費」に計上していた『界』送付用封筒の予算5万円を「消耗品費」に移しました。

次に**特別会計**です。《収入》では、昨年度の新刊『情報資源組織法』の売り上げ増に期待するとともに、『日本図書館研究会の75年』(仮題)(『界』75周年記念号の単行本)を新たに刊行・発売したいと考えています。《支出》では、その費用として150万円を「出版印刷費」に計上しました。

第2特別会計は、《収入》《支出》とも2020年度と同様の予算編成です。

2021年度は、**第3特別会計(75周年記念事業積立)**の事業の当該年であると同時に締め括りの年です。この事業に寄附を寄せて下さった皆さまや多くの会員の期待に応えるべく、予算を有効に活用し事業を実施していきます。《収入》は19年度と同様ですが、《支出》は20年度に実施した座談会の経費のほか、記念式典開催のための費用を各費目に計上しました。さらに前述のとおり、一般会計に220万円を繰り出します。

以上、21年度もコロナ禍を念頭に多くの行事でオンライン開催が想定されますが、だからといって活動を停滞させてはなりません。図書館界の活性化のため、コロナ禍であってもできることを着実に実施することが求められます。対面での交流が望ましいのはもちろんですが、オンラインでは、居住地に関わらず様々な行事・イベントに参加できるという利点があります。また、全国の図書館員や図書館研究者がイベントを通じて交流し、協力しあえることが日図研の大きな特徴です。日図研では、これらの利点を活かし、多くの会員が交流できる機会を提供していく所存です。

* * * * *

ここに掲げた決算報告、事業計画・予算案の審議と承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さんの声をできるだけ反映させたいと思います。メールやFAX等でぜひご意見をお寄せください。当会の運営や行事についての感想・要望等でも結構です。

送付先：当会事務局

nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：2021年5月22日(土) 必着

(まつい じゅんこ 大阪芸術大学)

『図書館界』の充実を目指して

編集委員長 前川 敦子

『図書館界』（以下『界』）編集委員長として2期4年を終え、3期目を拝命することとなりました。会員の皆さまの期待に応えるべく、気持ちを引き締め、伝統ある『界』を引き継いでいきたいと考えています。

以下、本年度の計画をご紹介します。

1. 投稿規定改定と《研究ノート》新設

『界』の誌面の最も大きな柱は、図書館情報学の新しい知見の発表の場であることであり、会員の皆さまからの投稿です。

これまで投稿論文の枠として、学術的な《論文》と、より実践的な報告・提言である《現場からの提言》の2つの枠がありました。これに加え、2021年4月の投稿規定改定により《研究ノート》枠を新設し、また各原稿種別の定義を制定しました(p.46, 53-54参照)。

これらの枠組みは、本会の特長である学術活動と図書館現場から生まれる理論や実践とともに重視する立場をふまえて設定しています。いずれも査読者による評価を経た上で掲載の可否を決定します。多様な投稿をお待ちしています。

2. 《書評・新刊紹介》・《エコー》

書評や新刊紹介は、誌面の幅を広げ『界』の魅力を増すものとして、今年度も積極的に掲載します。執筆依頼がありましたらぜひご協力ください。新たな書き手の発掘も意識しています。投稿も歓迎です。

また会員の皆さまの声をお伝えいただく手段として《エコー》があります。情報提供や会員間の双方向な意見交換の場としてご活用ください。今回の投稿規定改定により、分量(上限)を2頁に増加しました。短いものも歓迎です。皆さまの声を誌面にお届けください。

3. 特集・連載

一昨年度残念ながら中止となった研究大会は、2020年度はオンライン開催にて無事終了することができました。例年どおり2号で特集予定です。

2020年度に開始した「解説 HOT TOPICS」は、デジタルアーカイブを題材に3回連載し、好評いただきました。今年度も継続して企画中です。

2021年秋には、いよいよ日本図書館研究会創立75周年を迎えます。4号を75周年記念誌として特集号とするほか、今年度中に75周年記念会員アンケート報告、若手座談会報告を、6号に記念式典・図書館学セミナー特集を掲載予定です。ご期待ください。

4. ホームページへの移行・連携

本号が刊行される頃には日本図書館研究会ホームページリニューアルが完成予定です。これに伴い例会報告類をウェブに移行し、経費削減を図るとともに、速報性のある自由度の高い情報発信を可能としました。メリットをうまく生かせるよう、また情報の一覧性や記録性を損なわぬよう、工夫しながら進めてまいります。

5. 『界』72巻の報告

昨年度の『界』は以下のような内容でした。

- ・《論文》7本 ・《現場からの提言》1本
- ・《特集・2019年度グループ研究報告》6本
- ・《解説・HOT TOPICS》3本
- ・《書評》15本 ・《新刊紹介》3本
- ・《エコー》2本 ・《追悼》2件

投稿いただいた皆さま、また執筆依頼に快く応じてくださった皆さまに心よりお礼申し上げます。

6. J-STAGE からのオープンアクセス

J-STAGE をプラットフォームとした『界』の全文公開を継続します。51巻(1999)以降、刊行後1年以後の号はオープンアクセスとしてインターネット上に無料で公開するとともに、個人会員の方には1年未満の号も閲覧できるID/パスワードを発行しています。不明な場合は事務局にご連絡ください。

以上、編集委員一同、引き続き『界』の内容充実に向けてまいります。よろしくご協力ください。

(まえかわ あつこ 富山大学附属図書館)

研究委員会の主な事業について

研究委員長 日置 将之

2020年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続き、研究例会は大半がオンライン開催となりました。また、研究大会もオンラインでの開催となり、現在の社会状況に応じてどのような開催方法が適切なのか、試行錯誤を続けた1年でした。今年度も新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、引き続き研究事業を実施したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

以下、会員間の研究成果の発表・交流・学習等の場として、研究委員会が今年度担当する主な事業をご紹介します。

1. 研究大会の開催

2021年度(第63回)研究大会は、2022年2月～3月頃に2日間の日程で開催する予定です。例年と同様、1日目は個人会員と研究グループの研究発表を行い、2日目のシンポジウムは図書館に関する重要なテーマを取りあげて論議を行いたいと考えています。開催方法については、状況に応じて集合とオンラインのどちらにするかを判断します。

大会のお知らせは、本誌73巻3号(9月)に個人発表等の募集を、4号(11月)に大会予告を、5号(1月)に正式な大会案内を掲載する予定です。また、本会のウェブサイトやツイッターアカウントにおいても随時ご案内します。

2. 研究例会・特別研究例会の開催

日常的な研究・活動報告の場として年間7回程度開催しています。会員・非会員を問わず参加可能とし、広く開かれた形での開催です。発表に関心があられる会員はぜひご連絡ください。なお研究グループは、研究成果の公開を、研究大会のほか、研究例会での発表で行うことも可能です。

特別研究例会は、評議員会の日程にあわせて午前中に開催します。本年度は、本号 p. 48に記載のとおり、5月30日(日)に山口源治郎氏(東京学芸大学

特任教授)をお招きしてオンラインで開催する予定です。

3. 図書館学セミナーの開催

図書館学セミナーは、時流に沿った関心の高いテーマを設定して討議する場として開催しています。今年度は、日本図書館研究会創立75周年記念式典と連動した特別なセミナーとして、10月末頃に京都府内で開催する予定です。詳細は73巻3号(9月)にてご案内します。

4. グループ研究への助成

会員の皆様は、地域又は研究テーマごとに研究グループを組織することができます。また、会員7名以上から構成される研究グループについては、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上で、原則として年3万円を2年間にわたり助成しています。助成を受けた研究グループには、研究大会や研究例会、本誌誌上などでの研究成果の報告をお願いしています。研究グループの参加は全ての会員に開かれていますので、既存研究グループへの参加や新たな研究グループの結成については、各研究グループの連絡先や研究委員会にご相談ください。

5. お願い

研究大会・例会等のテーマや発表者についてご希望がありましたら、研究委員会までお知らせください。また、研究大会・例会等の講師のお願い・会場提供のご相談をさせていただくことがありますので、ご協力いただけると幸いです。

これまで通りの研究活動が続けることは難しい状況ではありますが、70年以上に渡って受け継がれてきた伝統を途切れさせることのないよう、引き続き活動が続けていければと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

(ひおき まさゆき 大阪府立中之島図書館)

若手・中堅の書き手へ 図書館研究奨励賞を

図書館研究奨励賞選考委員会

委員長 前川 和子

担当理事 常世田 良

日本図書館研究会は今年75周年を迎えますが、10月の記念式典を前にして、しきりに日本図書館研究会とは何か、何のためにこの学術団体は存在するのかとの問いかけをする現在です。そして、私たちの日本図書館研究会の機関誌『図書館界』はというと、図書館活動(サービス)を実行する・考える図書館司書、司書教諭、図書館職員、図書館研究者など(以後、図書館関係者)が、各々の「著作」(論文、現場からの提言、エコー、書評など)を投稿し、それを会員と共有する場なのだと、その機関誌としての大切さを再認識しています。また、日本図書館研究会のユニークさは、たくさんの自主的な研究会の集まりだということです。個々の図書館関係者は、研究会のグループ研究の輪の中で、さらに磨かれ刺激を受け伸び、新しい著作物を生産することができるようになることと思われまふ。

当委員会は、それらの「著作」の中でも、査読を経て掲載された「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」の中の特に若手・中堅の書き手に注目し、その「著作」が図書館界でどのような意義をもつかを明らかにし、当該研究分野の発展性から、さらに「伸びしろ」が感じられる方に賞を贈るという役目を担っています。

問題意識をもち、日々の図書館活動に邁進している方、時間に追われて押しつぶされそうになっている方、このように毎日忙しくされている方々がほとんどの中、自らの問題意識に注目し、ほんの少しの時間でも見つけてパソコンに向かうという著作活動にも注目して頂きたいのです。図書館活動とは何か、私たちは今何ができるか、しないといけないのか、を自分の言葉で、あるいは誰かの言葉の応援を受けて語って頂きたいのです。

激しく変化する社会であります、2020年はCOVID-19の拡大の中で図書館のサービスの在り方

前川、常世田：若手・中堅の書き手へ図書館研究奨励賞を

が大きく変化する必要を、さらに突き付けられた年になったといえます。利用者を支え、また利用者に支えられる図書館界に生きる図書館関係者である会員の皆さまにより、まずは『図書館界』への投稿の増加を望みます。「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」以外の投稿でも勿論結構です。これら以外の投稿が増えれば、またそれにふさわしい賞ができるかも知れません。

さて、上述の通り図書館研究奨励賞は、『図書館界』に掲載された「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」の中から優秀作に贈られます。この賞は、故森耕一理事長の基金によって1990年から始まりました。

授賞式は、毎年開催される研究大会の第1日目で、表彰状と副賞10万円が当会理事長から授与されます。

今年度(2021年度)の対象期間は、2019年11月号(71巻4号)から2021年9月号(73巻3号)までの『図書館界』掲載が対象となります(本賞の詳細につきましては、本研究会ホームページ「図書館研究奨励賞」をご参照ください)。

さて若手あるいは中堅の意味は、年齢的に若いことと、少し齢を重ねられていても、「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」を書くという研究活動がご自分にとって比較的近年であることです。

そして、この賞を受賞されることにより、未来の研究や職場での実践に後押しができることになれば、こんな嬉しいことはありません。

当選考委員会は約5名で構成されます。メンバーは夏に理事会で承認を受け、その後選考が始まります。また、会員の皆さまにも今年の秋に誌上で呼びかけをします。第4号(11月号)に「日本図書館研究会図書館研究奨励賞選考にご参加ください」の見出しで、会員の皆さまの選考への参加(ご推薦)を募集します。「推薦」を「自薦または第2以下の共著者による推薦を含む」と広げているのは、ユニークなところ。もちろん「自薦」は、当委員会内の秘匿です。締め切りは12月の中旬を予定しています。日頃から機関誌『図書館界』をお読みになっている中で、会員の皆さまのご推薦を頂き、より選考が盛り上がることを期待しています。

良き書き手に図書館研究奨励賞を贈り、授賞者を皆様とともに讃えることを楽しみにしたいと思います。

(まえかわ かずこ 桃山学院大学特別研究員)

(とこよだ りょう 立命館大学)

ブロックセミナー 開催のお誘い

ブロックセミナー担当

石川 敬史・井上 昌彦

川崎 千加・谷合佳代子

日頃、遠方まで研究会などに参加したくても行けない、という会員の方も多いかと思います。各地域で気軽に足を運んで、地元で図書館をテーマに議論できる場を設けたい。最新の研究成果に接することができる講演会を開催したい。地域の図書館活動の実践や、地元の図書館員の研究成果を発表する機会を設けたい。ブロックセミナーは、こうした要望に応えるために、各ブロックの会員の申し出によって開催されます。開催にかかわる経費は、原則として全額を日本図書館研究会が負担します。

2020年度は九州ブロックセミナーを Zoom によるオンラインで開催しました。九州・沖縄地区を中心に多くの方にご参加いただき、活発な意見交換ができました。COVID-19により集会が難しい状況は続きますが、オンラインによって距離を超えて人と交流することができるようになりました。公的な機関による開催でなくても、会員同士のつながりを持つ機会をつくることもブロックセミナーがお手伝いできるのではないかと考えます。各地域で図書館について考え、語り合う場が持たれ、日本図書館研究会の活動が活発になることを期待しています。

企画については担当理事の石川・井上・川崎・谷合にご相談いただくか、事務局あてご連絡ください。今期は担当理事も増強してお待ちしています。

連絡先：日本図書館研究会事務局

電話：06-6225-2530(月・木曜13時～17時)

事務局 E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

(いしかわ たかし 十文字学園女子大学)

(いのうえ まさひこ 関西学院大学図書館)

E-mail：inoue@kwansei.ac.jp)

(かわさき ちか 大阪女学院大学・短期大学)

(たにあい かよこ エル・ライブラリー

(大阪産業労働資料館))